

## 例3： 「生徒の夢についての口頭試問」

会話活動

標準

中等プログラム 5年

基準	A	B	C	D	E
得たレベル	6	5	-	-	-

### 背景

- この会話活動は生徒が同じテーマで作文を書いた一週間後に行なわれたものである。教師は各生徒の話の内容に基づいて様々な質問を行ない、生徒はそれに即答している。従って聴解能力評価も同時に行われていることになる。
- 話の長さは3分間から5分間だが、これは会話活動の時間の必要条件を満たしている。その場での準備の時間は特に与えられていないが、生徒は各自自分のテーマは知らされていた。
- 評価される生徒及び教師のみが教室に残り他の生徒は教室外に退出している。これは雑音と外部からの干渉を最小限に留めるためである。
- この課題は基準A及び基準B内で評価してある。
- この標準レベルの生徒を同じテーマで発表している上級レベルの生徒と比較し、(評価者側からの) 期待度の差に注意していただきたい。

### 評価

#### 基準A 内容と情報交換

最高レベル8

この作品がレベル6を得た理由は以下の通りである。

- 情報を明確に伝えているが、より複雑な内容になると少し戸惑いが見られる。
- テーマに沿った内容だが、詳細さに欠ける部分がある。意見は理由付けができていない。
- 慣れた部分の会話では正しく応答し、内容を良く理解している。
- 積極的に会話に参加し、会話の流れを保っている。たまに教師に促されている部分もあるが、会話の流れを妨げてはいない。

以下の項目が習得できていれば 同生徒はより高いレベルに達したと思われる。

- 的を絞った内容にし、例や解説を使って詳しく述べる。
- 会話の流れをもっと滑らかにする。

#### 基準B 表現と言語使用

最高レベル8

この作品がレベル5を得た理由は以下の通りである。

- 発音や抑揚に時折間違いが見られるが、会話の内容の理解を妨げることはほとんどない。
- 語彙や文法をほぼ正しく使っているが、間違いのために意味が分からない部分もある。
- 適切な言葉遣いである。

例3: 「生徒の夢についての口頭試問」

以下の項目が習得できていれば 同生徒はより高いレベルに達したと思われる。

- 慣用句の使用を試みる。
- もっと広い範囲の語彙や文法事項を使う。
- 抑揚をはっきりさせ、もっと流暢に話す。